



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月9日

上場会社名 古河機械金属株式会社

上場取引所 東

コード番号 5715 URL <https://www.furukawakk.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中戸川 稔

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 田近 強

TEL 03-6636-9502

四半期報告書提出予定日 2023年11月13日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	94,793	△9.4	4,599	36.4	6,074	16.4	12,911	274.4
2023年3月期第2四半期	104,576	6.9	3,372	△3.2	5,219	27.6	3,448	49.2

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 18,699百万円 (274.6%) 2023年3月期第2四半期 4,992百万円 (157.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	341.52	-
2023年3月期第2四半期	89.37	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	249,979	121,196	47.2
2023年3月期	232,745	106,050	44.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 117,929百万円 2023年3月期 102,946百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	50.00	50.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	190,000	△11.3	9,700	7.4	10,500	12.3	16,500	165.6	443.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	40,445,568株	2023年3月期	40,445,568株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	3,255,387株	2023年3月期	2,329,563株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	37,807,375株	2023年3月期2Q	38,587,836株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 決算説明会（証券アナリスト、機関投資家向け）について

当社は、決算説明会をライブ配信形式で開催いたします。なお、決算説明会資料および説明会動画につきましては、当社ウェブサイトにて掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
2024年3月期 第2四半期決算短信 補足資料 .....	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

## (1) 経営成績に関する説明

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	104,576	94,793	△9,783
営業利益 (百万円)	3,372	4,599	1,227
経常利益 (百万円)	5,219	6,074	855
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,448	12,911	9,463

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から同年9月30日まで）の我が国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかに回復しました。サービス消費やインバウンド需要の回復を受け、非製造業では増益が続いていますが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の減速が製造業の収益を下押ししました。

このような経済環境の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、947億93百万円（対前年同期比97億83百万円減）、営業利益は、45億99百万円（対前年同期比12億27百万円増）となりました。産業機械部門は減収減益、ロックドリル部門は増収増益、ユニック部門は増収減益となり、機械事業全体では、増収増益となりました。素材事業では、金属部門は減収増益、電子部門は減収減益、化成品部門は増収増益となり、全体では減収増益となりました。また、不動産事業は減収減益となりました。営業外収益に為替差益10億80百万円ほかを計上した結果、経常利益は、60億74百万円（対前年同期比8億55百万円増）となりました。特別利益に、古河大阪ビルの跡地その他の土地の一部を共有持分として譲渡したことを主とした、固定資産売却益134億23百万円ほかを計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、129億11百万円（対前年同期比94億63百万円増）となりました。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は、以下のとおりです。

## [産業機械]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	7,862	6,054	△1,807
営業利益 (百万円)	13	△283	△296

産業機械部門の売上高は、60億54百万円（対前年同期比18億7百万円減）、営業損失は、2億83百万円（前年同期は13百万円の利益）となりました。当第2四半期連結会計期間末の受注残高は、橋梁において八王子南バイパス大船寺田高架橋などの受注があり、前連結会計年度末に比べ増加しました。売上高については、マテリアル機械は本体の販売減により減収となり、ポンプ設備についても減収となりました。コントラクタ事業は、橋梁の清水IC第3高架橋鋼上部工事や東海環状大安高架橋などについて、出来高に対応した売上高を計上しましたが、大型プロジェクト案件の工事減により、減収となりました。営業損益については、マテリアル機械においてプラント工事の遅延に伴う追加原価の発生があり、損失計上となりました。

## [ロックドリル]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	18,003	19,961	1,957
営業利益(百万円)	1,057	2,146	1,089

ロックドリル部門の売上高は、199億61百万円(対前年同期比19億57百万円増)、営業利益は、21億46百万円(対前年同期比10億89百万円増)となりました。国内については、油圧クローラドリル本体の出荷増および整備事業の受注増により、増収となりました。海外については、需要が旺盛な北米における油圧ブレーカの出荷増、油圧クローラドリルのアフリカへの出荷増に加え、円安による増収効果もあり、増収となりました。

## [ユニック]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	14,067	14,286	219
営業利益(百万円)	811	717	△93

ユニック部門の売上高は、142億86百万円(対前年同期比2億19百万円増)、営業利益は、7億17百万円(対前年同期比93百万円減)となりました。国内については、近年発生していた電子部品や海外部品の調達難に伴うトラックの生産遅延が回復傾向となり、トラック供給台数が増加したことにより、ユニッククレーンの出荷が増加し、増収となりました。海外については、北米向けの出荷は比較的堅調に推移しましたが、中国、東南アジア、欧州などへの出荷が減少し、減収となりました。

## 《機械事業合計》

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	39,933	40,302	369
営業利益(百万円)	1,882	2,581	698

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械事業の合計売上高は、403億2百万円(対前年同期比3億69百万円増)、営業利益は、25億81百万円(対前年同期比6億98百万円増)となりました。

## [金 属]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	53,903	43,359	△10,543
営業利益 (百万円)	492	1,254	761

金属部門の売上高は、433億59百万円（対前年同期比105億43百万円減）、営業利益は、12億54百万円（対前年同期比7億61百万円増）となりました。電気銅の海外相場は、8,966米ドル/トンで始まり、4月半ばには9,000米ドル/トン台まで上昇したものの、米国の追加利上げ観測と、中国需要低迷の兆しにより、6月末には8,210米ドル/トンとなりました。その後は、中国の景気刺激策への期待感と、需要の不透明感を主因として上げ下げを繰り返し、期末には8,230.50米ドル/トンとなりました。2023年3月末をもって小名浜製錬株式会社との委託製錬契約を終了したことにより、電気銅の生産および販売数量が減少し、減収となりましたが、委託製錬収支の改善並びに金属価格変動や円安による価格差益により、増益となりました。

## [電 子]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	3,600	3,540	△59
営業利益 (百万円)	321	274	△46

電子部門の売上高は、35億40百万円（対前年同期比59百万円減）、営業利益は、2億74百万円（対前年同期比46百万円減）となりました。高純度金属ヒ素は、国内外ともに主要用途である化合物半導体用向け市場が未だ在庫調整期にあり、また、窒化アルミセラミックスは、基板やフィルターの需要が旺盛だったものの、半導体製造装置向け部品の需要が低迷し、減収となりました。コイルは、半導体不足が解消されつつある自動車生産の回復により、増収となりました。

## [化成品]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	4,461	4,603	142
営業利益 (百万円)	361	383	22

化成品部門の売上高は、46億3百万円（対前年同期比1億42百万円増）、営業利益は、3億83百万円（対前年同期比22百万円増）となりました。酸化銅は、銅価の上昇と価格改定などにより販売単価が上昇したものの、パソコン、スマートフォン向けに加え、クラウドサーバー基板向けの需要も減少したため、減収となりました。亜酸化銅は、主要用途である船底塗料の需要が回復したことに加え、銅価の上昇と価格改定などにより販売単価が上昇し、増収となりました。

## 《素材事業合計》

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高 (百万円)	61,964	51,503	△10,461
営業利益 (百万円)	1,175	1,912	737

金属、電子および化成品の素材事業の合計売上高は、515億3百万円（対前年同期比104億61百万円減）、営業利益は、19億12百万円（対前年同期比7億37百万円増）となりました。

## [不動産]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	1,067	903	△164
営業利益(百万円)	424	226	△198

不動産事業の売上高は、9億3百万円(対前年同期比1億64百万円減)、営業利益は、2億26百万円(対前年同期比1億98百万円減)となりました。主力ビルである室町古河三井ビルディング(商業施設名: COREDO室町2)は、商業施設の売上げに応じて発生する変動賃料が、コロナ禍前の水準まで回復しましたが、市況が悪化しているオフィスについては、事務所テナントの減床および賃料単価の低下により、減収となりました。

## [その他]

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	1,610	2,083	473
営業利益(百万円)	△59	△86	△26

金属粉体事業、鋳物事業、運輸業等を行っています。売上高は、20億83百万円(対前年同期比4億73百万円増)、営業損失は、86百万円(対前年同期比26百万円の損失増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 財政状態

	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末	対前連結会計年度末増△減
総資産(百万円)	232,745	249,979	17,233
負債(百万円)	126,695	128,782	2,087
(うち有利子負債 (百万円))	62,848	62,397	△451
純資産(百万円)	106,050	121,196	15,146
自己資本比率(%)	44.2	47.2	3.0

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、2,499億79百万円で、前連結会計年度末に比べ172億33百万円増加しました。これは主として、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したこと、現金及び預金、商品及び製品、また、上場株式の株価上昇により投資有価証券が増加したことによるものです。有利子負債(借入金)は、623億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億51百万円減少しました。純資産は、1,211億96百万円で、前連結会計年度末に比べ151億46百万円増加しました。

## ②キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	対前年同期増△減
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△7,191	8,443	15,634
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△597	1,946	2,544
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	11,706	△4,312	△16,018
現金及び現金同等物(百万円)	19,181	20,364	1,182

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、非資金損益項目等の調整後収入(税金等調整前四半期純利益に非資金損益項目等を調整)は、74億26百万円となり、主として、営業活動に係る資産・負債の増減による収入が22億94百万円、法人税等の純支払額が18億19百万円となったことにより、84億43百万円の純収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として、有形固定資産の売却による収入により、19億46百万円の純収入となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、主として、自己株式の取得による支出および配当金の支払額により、43億12百万円の純支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ67億57百万円増加し、203億64百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前回(2023年5月29日)発表の業績予想との比較において、産業機械部門は、第2四半期連結累計期間までの実績を主因として、減収減益を見込み、ユニック部門は、トラックの入庫遅れによりユニッククレーンの出荷が予想を下回ること、および購入部品、部材費等の高騰により、減収減益になると予想しています。一方、第2四半期連結累計期間に、海外における販売の占める割合が多く円安効果があったロックドリル部門、および金属価格変動や円安による価格差益があった金属部門は、増収増益を見込み、連結全体の売上高および営業利益を上方修正しています。これに加え、営業外収益に為替差益ほかの計上を見込み、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益についても、上方修正しています。



## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,606	20,364
受取手形、売掛金及び契約資産	35,502	29,031
商品及び製品	18,705	21,877
仕掛品	12,213	13,604
原材料及び貯蔵品	15,584	12,725
その他	4,318	3,439
貸倒引当金	△47	△46
流動資産合計	99,882	100,997
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,435	23,405
土地	53,910	51,710
その他(純額)	13,636	14,939
有形固定資産合計	90,981	90,054
無形固定資産	317	352
投資その他の資産		
投資有価証券	34,711	40,964
その他	7,622	18,442
貸倒引当金	△769	△832
投資その他の資産合計	41,563	58,574
固定資産合計	132,862	148,982
資産合計	232,745	249,979

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,397	13,625
電子記録債務	9,244	11,977
短期借入金	16,607	14,897
未払法人税等	1,711	2,512
引当金	202	292
その他	20,947	16,595
流動負債合計	63,111	59,900
固定負債		
長期借入金	46,240	47,499
引当金	97	4
退職給付に係る負債	2,481	2,266
資産除去債務	228	231
その他	14,534	18,879
固定負債合計	63,583	68,881
負債合計	126,695	128,782
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
資本剰余金	2	2
利益剰余金	58,847	69,860
自己株式	△3,086	△4,707
株主資本合計	83,971	93,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,320	16,625
繰延ヘッジ損益	△77	△63
土地再評価差額金	2,582	2,575
為替換算調整勘定	1,564	2,944
退職給付に係る調整累計額	2,584	2,483
その他の包括利益累計額合計	18,974	24,565
非支配株主持分	3,103	3,267
純資産合計	106,050	121,196
負債純資産合計	232,745	249,979

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日)
売上高	104,576	94,793
売上原価	91,343	80,184
売上総利益	13,232	14,608
販売費及び一般管理費	9,860	10,008
営業利益	3,372	4,599
営業外収益		
受取配当金	501	580
為替差益	2,142	1,080
その他	331	682
営業外収益合計	2,975	2,343
営業外費用		
支払利息	248	245
休鉱山管理費	401	400
その他	479	223
営業外費用合計	1,128	869
経常利益	5,219	6,074
特別利益		
固定資産売却益	5	13,423
その他	362	67
特別利益合計	368	13,490
特別損失		
賃貸ビル解体費用	470	458
子会社整理損	348	200
その他	368	42
特別損失合計	1,187	701
税金等調整前四半期純利益	4,399	18,863
法人税、住民税及び事業税	1,380	3,300
法人税等調整額	△565	2,515
法人税等合計	814	5,816
四半期純利益	3,584	13,046
非支配株主に帰属する四半期純利益	136	134
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,448	12,911

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,584	13,046
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△876	4,309
繰延ヘッジ損益	5	△5
為替換算調整勘定	1,863	1,161
退職給付に係る調整額	△89	△100
持分法適用会社に対する持分相当額	504	288
その他の包括利益合計	1,407	5,653
四半期包括利益	4,992	18,699
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,760	18,509
非支配株主に係る四半期包括利益	231	190

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,399	18,863
減価償却費	2,047	2,161
有形固定資産除売却損益(△は益)	206	△13,397
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△156	△317
受取利息及び受取配当金	△605	△778
支払利息	248	245
為替差損益(△は益)	△354	△436
売上債権の増減額(△は増加)	△985	6,795
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,573	△975
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,070	1,372
その他	△4,651	△3,812
小計	△5,493	9,721
利息及び配当金の受取額	589	784
利息の支払額	△235	△243
法人税等の支払額	△2,129	△2,632
法人税等の還付額	78	813
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,191	8,443
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,289	△3,695
有形固定資産の売却による収入	15	5,461
子会社株式の取得対価の調整に伴う一部対価の返還による収入	420	—
その他	256	180
投資活動によるキャッシュ・フロー	△597	1,946
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	26,341	7,748
短期借入金の返済による支出	△10,331	△8,247
長期借入れによる収入	3,100	6,500
長期借入金の返済による支出	△4,446	△6,653
自己株式の取得による支出	△888	△1,621
配当金の支払額	△1,938	△1,902
その他	△130	△136
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,706	△4,312
現金及び現金同等物に係る換算差額	794	680
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,712	6,757
現金及び現金同等物の期首残高	14,468	13,606
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,181	20,364

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	7,862	18,003	14,067	53,903	3,600	4,461
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,396	2	83	126	—	27
計	9,258	18,005	14,150	54,029	3,600	4,488
セグメント利益又は損失 (△)	13	1,057	811	492	321	361

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,067	102,965	1,610	104,576	—	104,576
セグメント間の 内部売上高又は振替高	6	1,643	804	2,447	△2,447	—
計	1,074	104,608	2,414	107,023	△2,447	104,576
セグメント利益又は損失 (△)	424	3,482	△59	3,422	△50	3,372

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金属粉体事業、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△50百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△56百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	6,054	19,961	14,286	43,359	3,540	4,603
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,478	2	184	113	—	28
計	7,533	19,964	14,471	43,472	3,540	4,631
セグメント利益又は損失 (△)	△283	2,146	717	1,254	274	383

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	903	92,709	2,083	94,793	—	94,793
セグメント間の 内部売上高又は振替高	4	1,812	924	2,737	△2,737	—
計	908	94,522	3,008	97,530	△2,737	94,793
セグメント利益又は損失 (△)	226	4,720	△86	4,634	△34	4,599

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金属粉体事業、鋳物事業、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△34百万円には、セグメント間取引消去22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△56百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2024年3月期 第2四半期決算短信 補足資料

2023年11月9日  
古河機械金属株式会社

## 〔売上高〕

(単位：百万円 単位未満切捨て)

	2023年3月期 第2四半期 累計期間	2024年3月期 第2四半期 累計期間	対前年同期増減	2024年3月期		
				前回発表	年度予想	対前年増減
機械事業	39,933	40,302	369	87,000	85,600	3,941
産業機械部門	7,862	6,054	△1,807	18,500	17,900	△43
ロックドリル部門	18,003	19,961	1,957	36,000	38,700	2,947
ユニック部門	14,067	14,286	219	32,500	29,000	1,038
素材事業	61,964	51,503	△10,461	91,600	98,300	△28,504
金属部門	53,903	43,359	△10,543	74,800	81,900	△29,524
電子部門	3,600	3,540	△59	7,700	7,300	373
化成品部門	4,461	4,603	142	9,100	9,100	645
不動産事業	1,067	903	△164	1,700	1,900	△156
その他	1,610	2,083	473	4,200	4,200	528
【合計】	104,576	94,793	△9,783	184,500	190,000	△24,190

## 〔営業利益〕

	2023年3月期 第2四半期 累計期間	2024年3月期 第2四半期 累計期間	対前年同期増減	2024年3月期		
				前回発表	年度予想	対前年増減
機械事業	1,882	2,581	698	7,400	6,600	506
産業機械部門	13	△283	△296	1,500	1,000	△515
ロックドリル部門	1,057	2,146	1,089	3,100	4,100	1,069
ユニック部門	811	717	△93	2,800	1,500	△47
素材事業	1,175	1,912	737	1,600	2,800	490
金属部門	492	1,254	761	500	1,700	423
電子部門	321	274	△46	400	400	△100
化成品部門	361	383	22	700	700	167
不動産事業	424	226	△198	400	500	△335
その他	△59	△86	△26	△150	△100	33
(計)	3,422	4,634	1,211	9,250	9,800	695
調整額	△50	△34	16	△50	△100	△26
【合計】	3,372	4,599	1,227	9,200	9,700	668

## 〔為替・銅価〕

	2023年3月期 第2四半期 累計期間	2024年3月期 第2四半期 累計期間	対前年同期増減	2024年3月期		
				前回発表	年度予想	対前年増減
為替 円/\$	134.0	141.0	7.0	135.6	143.0	7.5
銅価 \$/mt	8,634	8,417	△217	8,120	8,209	△342

※参考情報 (以下の数値は参考値です)

## 1. 産業機械部門受注残

産業機械については主に受注生産を行っており、当第2四半期会計期間末における受注残を示すと、次のとおりです。

	2023年3月期 第2四半期 会計期間末	2024年3月期 第2四半期 会計期間末	対前年同期増減
受注残	127億円	160億円	32億円

## 2. 金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2023年3月期 第2四半期 累計期間	2024年3月期 第2四半期 累計期間	対前年同期増減
営業利益	4.9億円	12.5億円	7.6億円
内価格影響分	5.2億円	8.7億円	3.4億円
銅	(△1.2億円)	(1.2億円)	(2.4億円)
金	(6.2億円)	(6.8億円)	(0.6億円)